

たかしま観光ビジョン

～暮らす人・訪れる人が友^{とも}につなぐ たかしま～

令和6年3月

はじめに

滋賀県の北西部に位置する高島市は、水と緑が豊かなリゾートエリアとして注目されており、近年では関西都市圏から移住される方が多くなっています。

陸地面積の約7割が森林で占められており、そこから湧き出す清らかな水は、高島に暮らす人々の生活を潤しながら琵琶湖へと流れ、多様な水辺の生活・食文化、伝統、特色ある景観を育み、更には観光資源としても活用されながら大切に守られてきました。

高島市総合計画における将来目標像は、「水と緑 人のいきかう 高島市」です。本市の自然環境は、永遠に残していきたい最大の魅力であり、豊かな自然に抱かれながら、いきいきとした人々の活動や交流による、元気で活発なまちを将来にわたり引き継いでいくこと、そして水と緑を守り、その恵みを大切にしながら、地域に誇りが持てる人を育てることにより「住みたい、住み続けたいまちの実現」を目指しています。

一方、全国的な少子高齢化が加速する中で、本市も例外なく定住人口の減少を予測しており、こうした状況のもと地域が活力を維持していくためには、本市をいきかう観光客や、本市とのつながりを持っていただける関係人口による、地域の活性化と経済の好循環につなげていくことが極めて重要であり、観光を軸とした地域振興への取り組みを進めることにより様々な産業への波及効果を生み出すものと考えています。

令和6年の北陸新幹線敦賀延伸や会員制リゾートホテルの開業、令和7年の国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の開催などを控える中、本市を取り巻く環境が大きく変化することで、国内外から更に多くの皆さまにお越しいただくことが期待されています。

本計画では、暮らす人と訪れる人が共に地域の魅力を理解し愛着を深めることで、本市を支えていただく方々の裾野を広げ、将来の関係人口や移住者の増加を念頭に置き、今後10年間の観光振興を進めていく上での本市の理念や方向性を定めたものであり、事業者・関係団体、市民の皆さまと共に「訪れたい、住みたい、住み続けたいまちの実現」を進めてまいります。

最後に、高島市観光ビジョン策定委員会の委員の皆さまをはじめ、ビジョン策定にご尽力いただきました皆さまに深く感謝を申し上げますとともに、このビジョンの確実な推進に向け、市民や事業者・関係団体、そして観光に来られる皆さまのご協力をお願い申し上げご挨拶いたします。

令和6年3月

高島市長
福井 正 明



目次

第 1 章 ビジョン策定にあたって	1
1 ビジョン策定の趣旨	1
2 ビジョンの位置づけ	3
3 計画期間	3
4 策定の流れ	4
第 2 章 将来像	5
1 ビジョンで目指す姿	5
2 3つの視点	6
第 3 章 本市の観光に関する現状	9
1 各種データからみる現状	9
2 調査結果等からみえること	20
第 4 章 取り組みの方向性・基本方針	22
1 基本方針に基づく取り組みの体系	22
基本方針1 価値ある資源を最大限に活かす取り組みを進めます	24
基本方針2 観光地に必要な機能強化を図ります	28
基本方針3 時代のニーズを捉え個性を磨きます	32
基本方針4 盤石な受け入れ体制を構築します	36
第 5 章 計画の推進体制	40
1 本ビジョンを推進するための各主体の役割について	40
2 計画の進捗管理	41
3 数値目標	42
資料編	43
1 実施調査一覧	43
2 高島市観光ビジョン策定委員会委員名簿	44
3 高島市観光ビジョン策定委員会開催日	44

第1章 ビジョン策定にあたって

1 ビジョン策定の趣旨

雄大な自然のもと、メタセコイア並木や白鬚神社のように全国から注目を浴びている観光地をはじめ、寺社に代表される歴史遺産、人の営みから生まれた文化的景観とその構成要素となる豊かな水を湛える琵琶湖、農業をはじめとする一次産業やものづくりの体験、アウトドアやトレイル、アクティビティなど自然の体感、そしてこの地が育んできた発酵食品をはじめとする食文化など、市内には数えきれないほどの観光資源が広く存在しています。併せてこの観光資源を活かし観光産業に関わる方々が、それぞれの立場で観光に取り組んできた歴史も存在しています。

そのような先人の努力もあり高島市（以下、「本市」）は観光地として成長を遂げ、市を訪れる観光客も平成27年から取り組みを始めたインバウンド誘客も功を奏し順調な増加を見せており、年間約400万人まで増加しました。順調に観光客数が増加していたこの間に国内では、一度に多くの外国人が観光地へ押し寄せた上ルールやマナーを守らない、あるいは価格競争の激化に伴う事業者の共倒れ、観光公害による地域からの不満の声が聞かれるなどの問題が生じ、持続可能な観光（UNWTO（国連世界観光機関）が「訪問客、業界、環境及び訪問客を受け入れるコミュニティのニーズに対応しつつ、現在及び将来の経済、社会、環境への影響を十分に考慮する観光」と定義）への意識が高まってきました。





このような状況の中、令和2年1月以降、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、国内における旅行控えや、訪日外国人旅行客の激減により、観光客はピーク時の4分の3まで落ち込むこととなりましたが、感染拡大から約4年が経過した現在、日常の生活が取り戻されつつあり、人の流れが活発となることで、観光需要の回復が益々期待されるところです。

またコロナ禍を経て人々の価値観やライフスタイルの更なる多様化が進み、特に密集を避けたアウトドア等の自然体験の需要が高まりました。トレッキングやスキー、キャンプなどのアウトドアをはじめ、生活文化や水辺景観などの日本遺産、その他密にならない豊かな自然を背景とする観光資源を活かした観光振興に取り組んできた本市にとって、これは大きな後押しとなっています。

そのような状況において、令和7年に開催される国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会をはじめ、大阪・関西万博などの大規模イベントの開催、国道161号の整備促進や北陸新幹線敦賀延伸など、本市を取り巻く環境の大きな変化が予定されており、これをチャンスと捉え、市にとって主要な産業分野の一つである観光振興施策を更に強く推し進める必要があります。

そのため、観光の現状と課題を整理した上で社会構造や個人の意識行動等の変化を捉え、持続的な発展と地域資源がより一層輝く観光の将来像を示すためのビジョンを策定しました。

このビジョンでは、事業者・関係団体、市民、行政等の観光振興に関わる多様な主体が一体となって取り組めるように目指す姿を定め、共通の目標として取り組みます。

2 ビジョンの位置づけ

たかしま観光ビジョン（以下、「本ビジョン」）は、本市の最上位計画である「高島市総合計画」の観光分野における個別計画として位置づけるものであり、今後の観光振興を進めていく上での市の理念や方向性を定めるものです。また、県の「シガリズム※観光振興ビジョン」や第2期高島市まち・ひと・しごと創生総合戦略（高島市デジタル田園都市国家構想総合戦略）との整合を図りながら推進するものとします。

3 計画期間

本ビジョンの実現に向けた取り組みは、長期的な視点を持って推進する必要があることから、2024年度から2033年度の10年間を計画期間とします。

年度													
2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033
		第2次高島市総合計画 後期基本計画					第3次高島市総合計画(仮)						
				たかしま観光ビジョン(本ビジョン)									
		シガリズム観光振興ビジョン											
第2期高島市まち・ひと・ しごと創生総合戦略					高島市デジタル田園 都市国家構想総合戦略(仮)								

※ 滋賀の自然に触れ、滋賀に暮らす人々と出会い、交流することで、ゆっくり、ていねいに暮らしてきた滋賀の時間の流れや暮らしを体感できる、“心のリズムを整える新たな‘ツーリズム’”の総称。

4 策定の流れ

本ビジョンの策定にあたって、学識経験者、地元関係者、交通事業者、金融機関、行政等から構成される「高島市観光ビジョン策定委員会（以下「策定委員会」）」を組織し、本市の持続可能な観光施策の推進と更なる発展に向けて協議・検討を行いました。

また、本市の観光に関する現状を把握するため、春・夏・秋・冬の季節ごとによる来訪観光客動態調査や、市民へのアンケート調査、WEBを活用した市外在住者へのアンケート調査を実施するとともに、市内で観光事業の第一線で活躍されている方や、特産品等の生産販売に携わっておられる方々との意見交換を行い、現状や課題、今後の展望についての貴重なご意見をいただきました。これらの調査結果やご意見を基に、本市の観光業を取り巻く外部環境と内部環境をプラス要因とマイナス要因に分類し分析する手法（SWOT分析）を用いて、現状整理と分析を行うことで、将来に向けた観光施策の方向性を明確にし、策定委員会ならびに庁内関係部局等との協議を踏まえ、本市が目指す観光のあるべき将来像、事業者・関係団体、市民、行政が共有する観光振興についての理念（3つの視点）、そして理念の実現に向けた施策の方向性を明確にしたところです。

令和4年9月に第1回策定委員会を開催、延べ8回にわたる策定委員会での協議を経て素案を取りまとめ、令和6年2月にパブリックコメントを実施し、同年3月にたかしま観光ビジョンを策定しました。

SDGs と観光について

SDGs（Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標）は、全世界共通の国際目標として、2015年に国連サミットで採択されたもので、2030年に達成すべき17のゴールと169のターゲットが掲げられています。経済成長と雇用に関する「目標8」、消費と生産に関する「目標12」、海洋資源に関する「目標14」の3つの目標には、観光の役割が明記されたターゲットが設定されています。また、2020年には観光庁より「日本版持続可能な観光ガイドライン」が示されたことにより、観光における持続可能性は近年非常に重視されています。

本ビジョンにおいては、SDGsの考え方も踏まえ、「ビジョンで目指す姿」を設定するとともに、各施策の推進にあたって、「持続可能な観光」を考慮して取り組みます。



第2章 将来像

1 ビジョンで目指す姿

～暮らす人・訪れる人が友^{とも}につなぐ たかしま～

本市は、奥山や里山、里湖の豊かな自然や景観、歴史に根差した街並み、多様な水辺の生活と食文化など、多種多様で貴重な資源が存在しており、これらは琵琶湖の存在とも調和しながら大切に守られてきました。加えてこれらの資源は地域経済に好循環をもたらす貴重な観光資源としても活かされています。

ビジョンを策定する際に行った調査からも「開放的でアクティビティが豊富」、「風光明媚」であること、また「素朴で癒される」など、市民が感じていることと来訪者が求めることはマッチしており、これが本市の持つ強みとなっています。

この強みは、過去から現在まで守り継がれてきたものであり、私たちはその価値を磨き上げ魅力を伝えることで次世代へとつないでいきます。

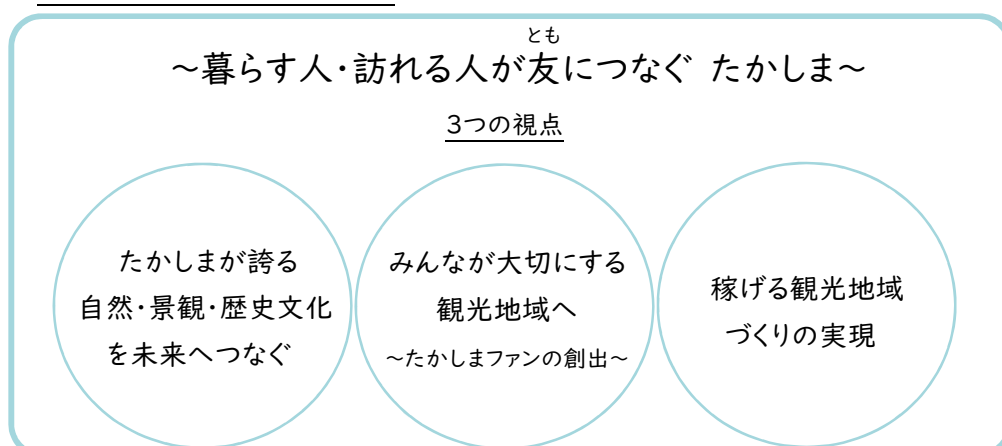
また、暮らす人が地域の魅力を再認識し地域への誇りや愛着を深めることで、貴重な資源が未来へと継承されるとともに、訪れる人には地域の魅力が伝わり、ひいてはたかしまを支える人の裾野を広げることに繋がります。

こうした観光を軸とした地域振興への取り組みを進めることにより、本市をいきかう人の流れを活発にし、観光業をはじめとする様々な産業への地域内循環を生み出し、持続可能な観光地域づくりを実現します。

本ビジョンでは、たかしまに暮らす人と訪れる人が、この豊かな観光資源の価値観を共有し、その魅力に心を寄せる友人や仲間を増やし、一緒になってたかしまを未来につないでいくことを、3つの視点を持って目指すものであり、

その思いとして、～暮らす人・訪れる人が友^{とも}につなぐ たかしま～をビジョンコンセプトとします。

目指す姿（ビジョンコンセプト）



2 3つの視点

1 たかしまが誇る自然・景観・歴史文化を未来へつなぐ

本市は東に琵琶湖、西には広大な田園と人々の暮らしが広がる里山、更に奥山の豊かな森林資源を有しており、森林と平野、琵琶湖が川によって結ばれ、四季の彩も美しい日本の原風景というべき風土が育まれてきた地域です。琵琶湖に注ぐ水の3分の1を生み出す豊富な湧水や川などの豊かな自然と景観に囲まれ、訪れた人々の日々の疲れを癒す地域として多くの人々に愛されています。古来より京都・奈良の都と北陸とを結ぶ交通の要衝として栄えた歴史があり、比叡・比良山麓を湖畔に沿って走る西近江路や、塩漬けされた鯖を運搬する「鯖街道」として親しまれてきた若狭街道を中心に港町や宿場町として発展し栄えてきました。

また、地域に住む人々は本市が持つ自然や歴史と調和しながら様々な暮らしの知恵や工夫を生み出し、発展させ、次の世代へと受け継いできました。例えば、現代においても「上流は下流を思い、下流は上流に感謝する」水を大切に思う生活や、水と自然が育む食文化など、大切に受け継がれた水と暮らしの文化が今なお地域に根付いています。

広大な農地は、食をつなぐ場としての役割だけではなく、本市の豊かな自然環境の保全と、良好な里山景観を形成しており、観光資源としても大きな役割を果たしているところです。

これらの自然、景観、歴史文化は過去から現代に至るまで積み重ねてきたもので、その一つ一つがたかしただけが持つ大きな魅力であり、観光地としての貴重な資源とすることができます。これら過去から受け継いだ貴重な資源を守り継ぎ、価値を磨き上げ、魅力を伝えることで未来につなげていきます。



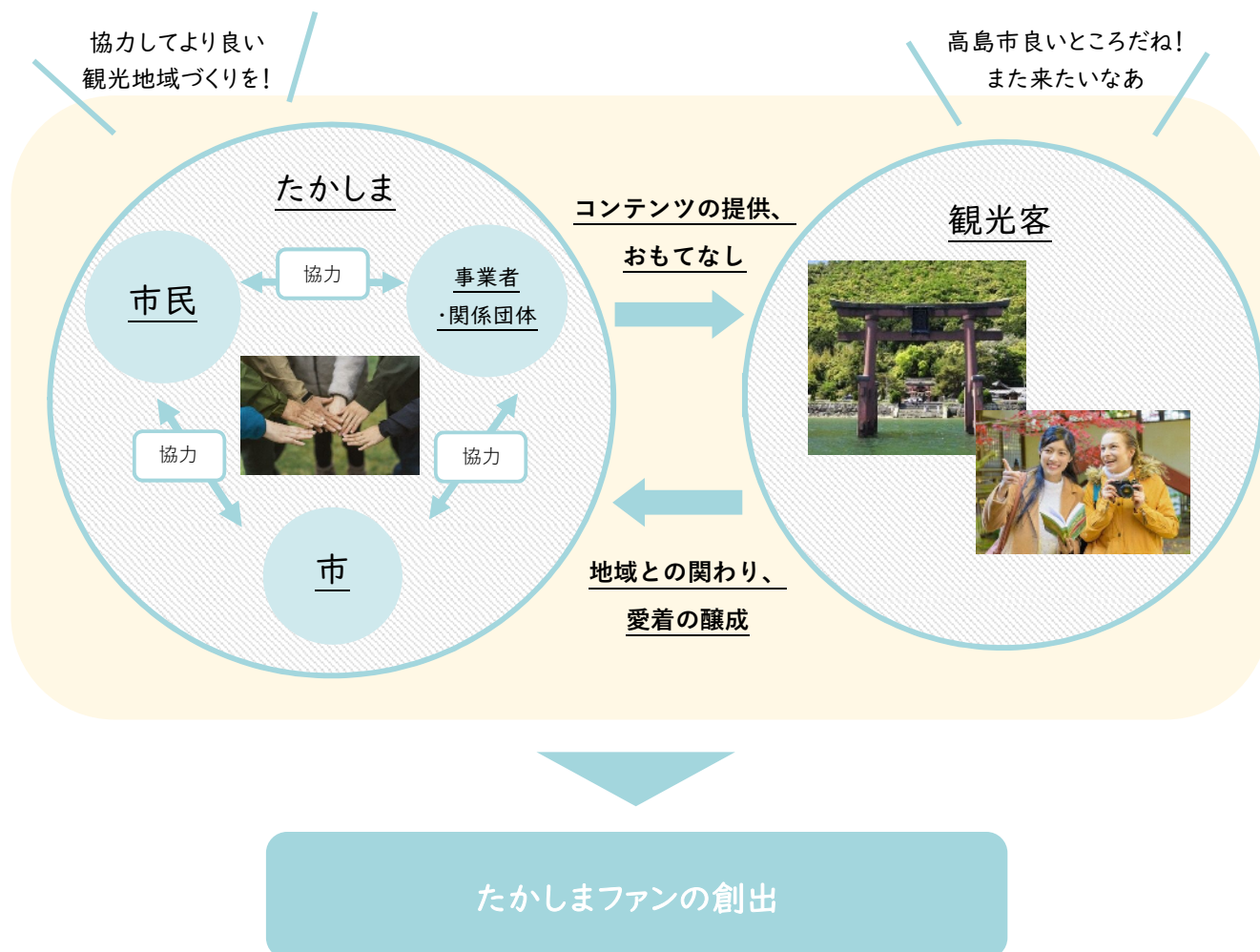
2 みんなが大切にする観光地域へ～たかしまファンの創出～

本市が、将来にわたって多くの人々から大切にされる観光地として成長するためには、観光客を迎え入れる事業者・関係団体、市民、行政がそれぞれの立場で、より良い観光地域づくりの一翼を担うことが求められます。

たかしまに暮らす人が、本市の貴重な資源と魅力を知ること、再認識することで、地域を誇りに思い、自信を持って地域を発信し、大切なものを次世代へと伝えていくことができます。暮らす人が地域への思いを深めることで、訪れる人々に地域の魅力が伝わり、たかしまファンとなるきっかけにつながるのではないのでしょうか。

こうした意識の醸成をはじめ、観光業に携わっている事業者と行政は共に、市民に対し、本市の観光についての関心を深めていくための活動を継続的に行っていくことで、地域の方々の観光振興に対する理解と気運が高まり、事業者・関係団体、市民、行政が一体となった、おもてなし力の向上を図り、本市への理解と愛着を持ったたかしまファンの創出につなげていくことを目指します。

また、こうした取り組みを通して観光事業に関わる人材とその裾野を広げます。



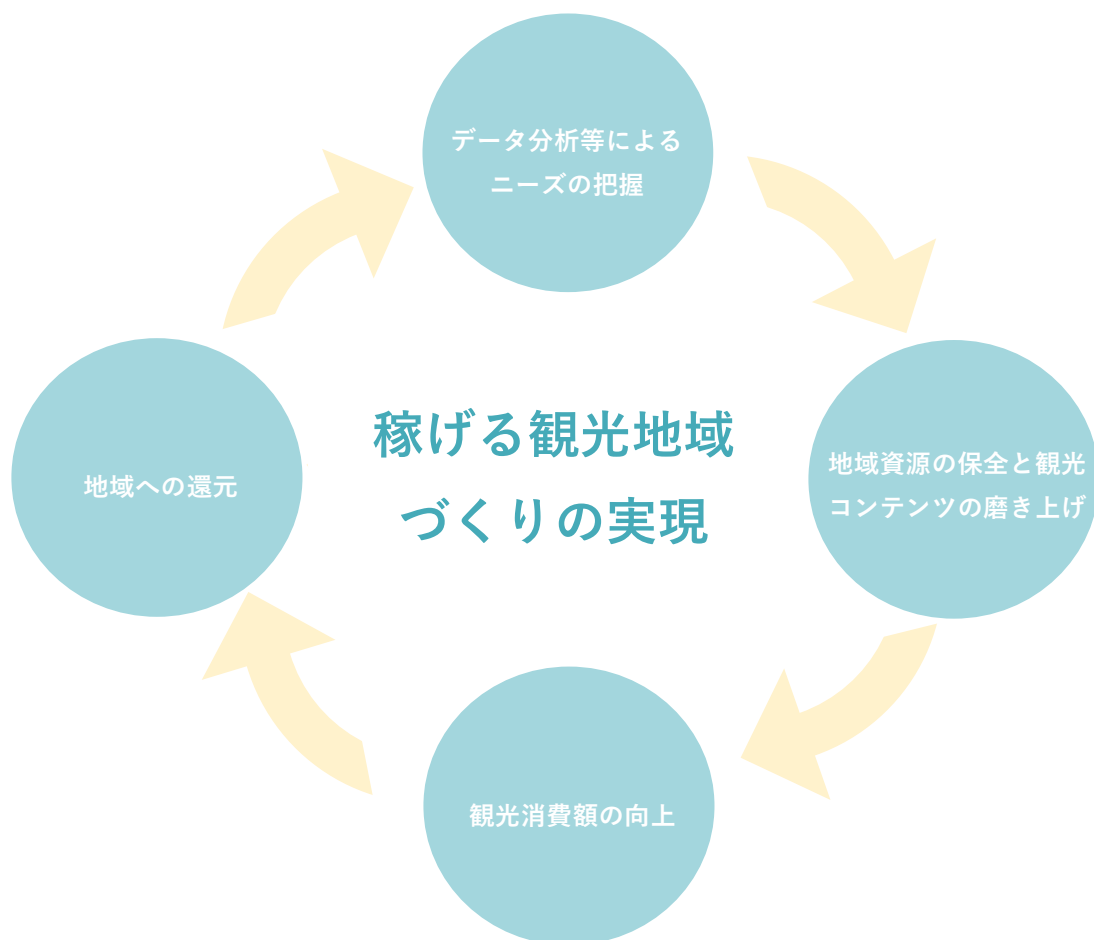
3 稼げる観光地域づくりの実現

本市の豊富な観光資源や特産品などの魅力を国内外に向けて発信し伝えるとともに、ニーズに対応した魅力ある観光コンテンツを造成し提供する上で、適正な対価を得る取り組みが重要です。

また、本市を訪れる観光客の市内周遊促進をはじめ、近隣市町とも連携した広域周遊を促進し滞在時間を延ばすことにより、消費機会の創出と、宿泊率の向上による観光消費の拡大が求められています。更には、本市は休日観光に偏りがあるため、インバウンドの受け入れ体制の充実と、更なる教育旅行の拡充を目指すなど、平日の安定した観光需要の獲得も必要です。

そのためには、継続的な観光需要のニーズ調査を基に、本市の観光統計を整備し、観光事業者等に共有を図るなど、マーケティングに基づくコンテンツの造成や魅力向上に向けた体制の構築が不可欠となります。

このような取り組みを進めることで観光消費額が向上し、その効果が観光業をはじめとするサービス業、製造業、農業、水産業など、様々な産業への地域内循環を生み出し、更には雇用の創出へとつなげることで、稼げる観光地域づくりを実現します。



第3章 本市の観光に関する現状

Ⅰ 各種データからみる現状

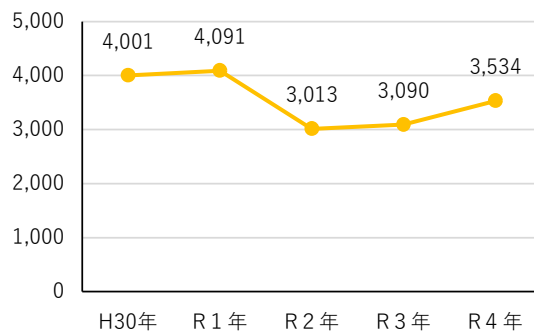
統計データや各種アンケートの調査結果、事業者へのヒアリング結果を基に本市の観光に関する現状について分析を行いました。

(Ⅰ) 来訪観光客の状況

●●観光客数の推移●●

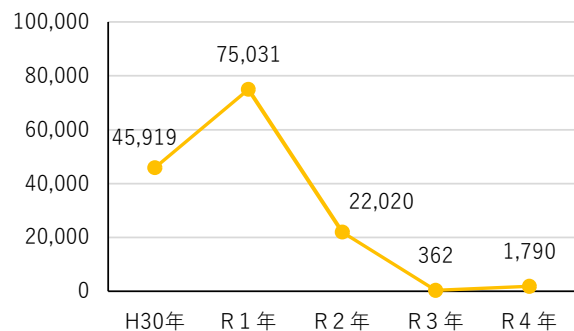
■本市における国内観光客数の推移

(千人)



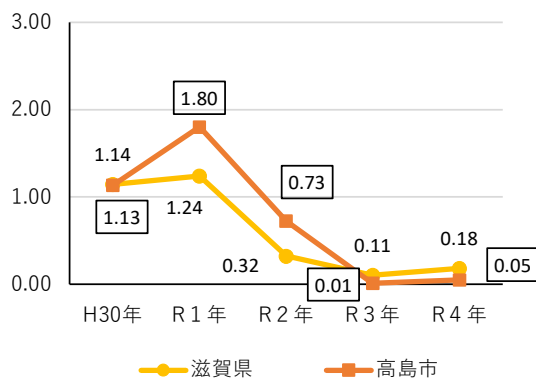
■本市における外国人観光客数の推移

(人)



■本市と滋賀県における観光客総数に占める外国人観光客数の割合

(%)



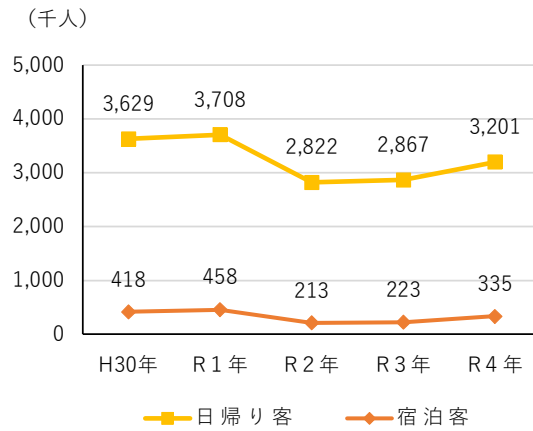
資料: 滋賀県観光入込客統計調査、高島市資料

資料からみえる現状

- 観光客数は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、R1年を境に大きく減少しています。新型コロナウイルス感染症流行前は 400 万人台、流行以降は 300 万人台で推移しています。
- 新型コロナウイルス感染症流行以前は、外国人観光客数は増加傾向となっています。
- 観光客総数に占める外国人観光客の割合は、R1・2年で滋賀県よりやや高くなっています。

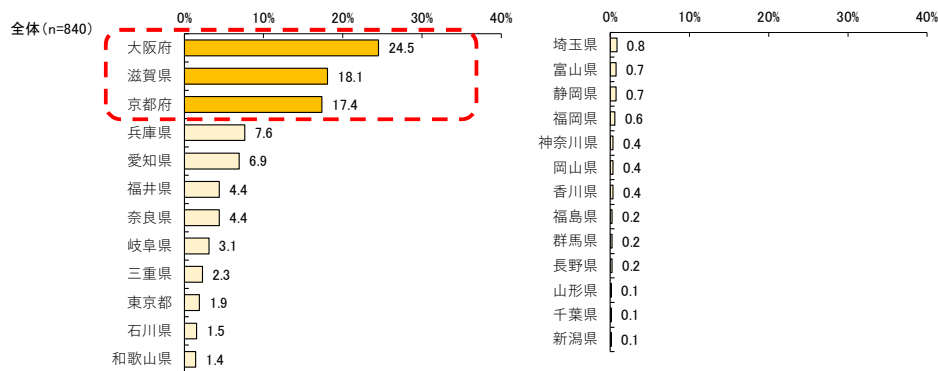
●● 来訪観光客動態調査における来訪者の属性 ●●

■ 本市における日帰り・宿泊観光客数の推移

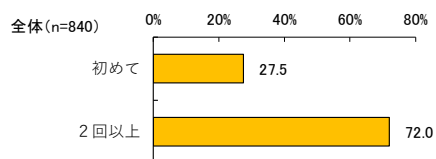


資料: 高島市資料

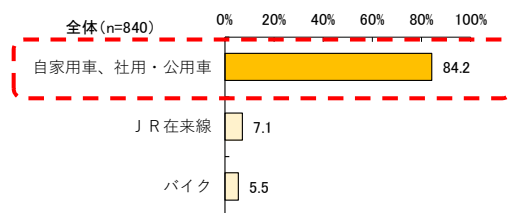
■ 来訪者の居住地



■ 訪問回数



■ 来訪手段(上位3位)

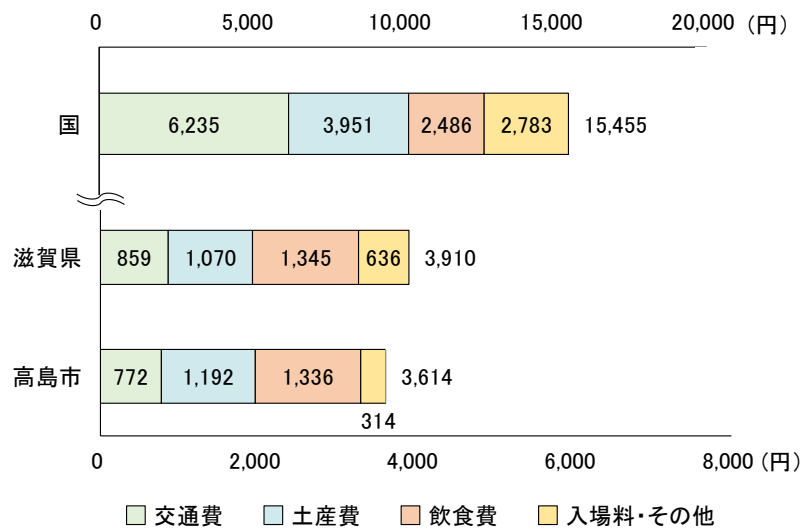


資料: 令和4・5年度来訪観光客動態調査

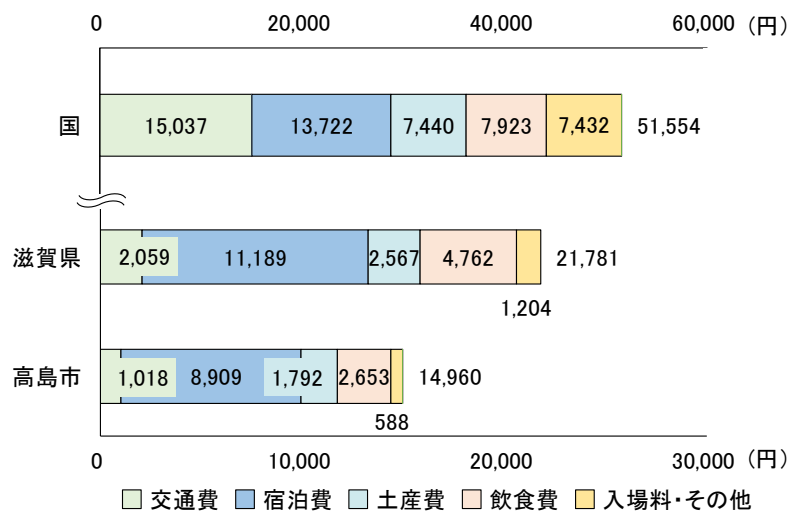
※本市に来訪した観光客 840 人の調査結果です。(以下同様)

●●観光消費額●●

■日帰り



■宿泊



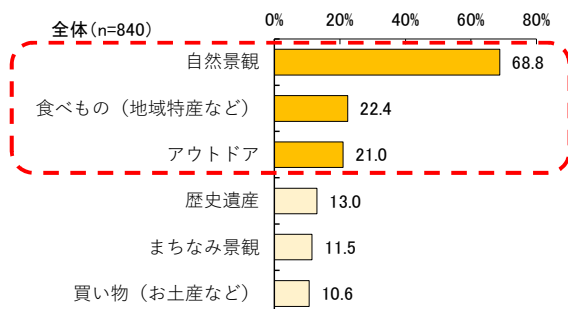
※宿泊は六ツ矢崎浜オートキャンプ場を除く

資料からみえる現状

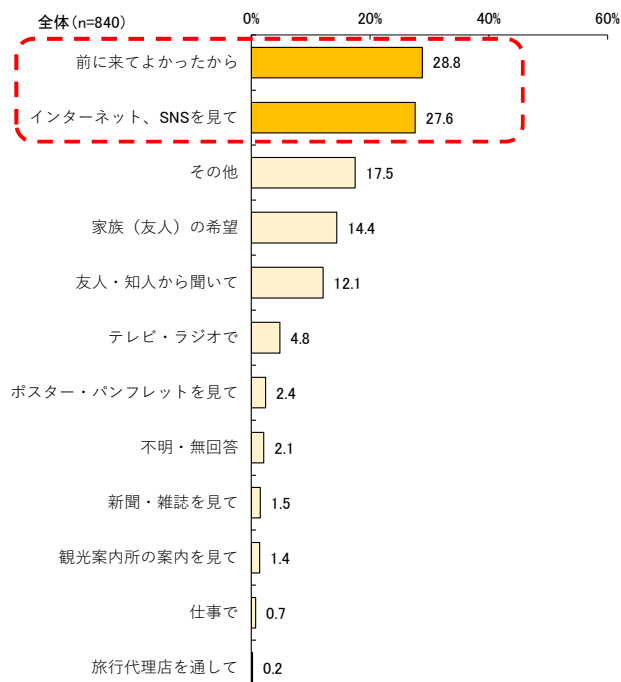
- 観光客全体の約9割が日帰り客となっています。
- 来訪者の居住地は大阪府が2割台半ば、滋賀県・京都府が1割台後半となっています。
- 訪問回数は2回以上が約7割となっています。
- 来訪手段は約8割が車での来訪となっています。
- 観光消費額は、日帰り・宿泊ともに国や県と比べて低くなっています。

(2) 来訪者の感想等

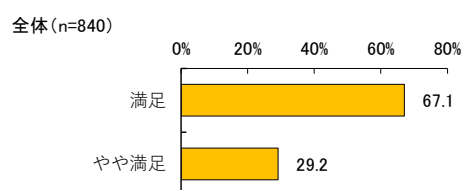
■期待していたこと



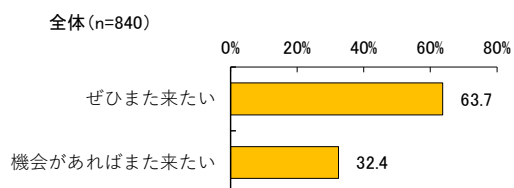
■来訪のきっかけ



■満足度



■再訪意向



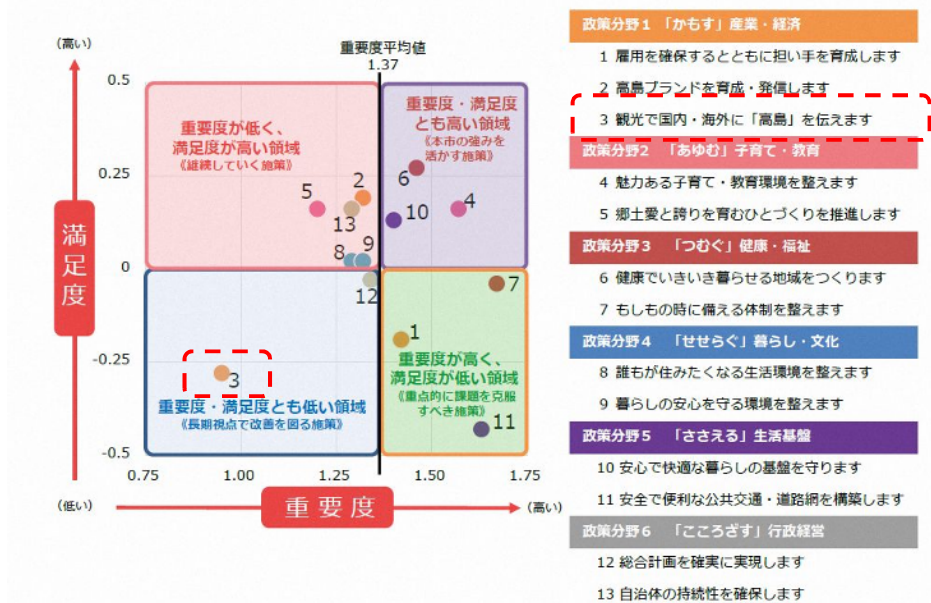
資料：令和4・5年度来訪観光客動態調査

資料からみえる現状

- 本市に期待する来訪目的は、「自然景観」が約7割となっています。また、「食べ物（地域特産など）」や「アウトドア」を期待している人も2割台となっています。
- 来訪のきっかけは以前来てよかったからや、インターネットや SNS を見たといった理由が高くなっています。
- 満足度は「満足」と「やや満足」を合わせると9割台半ばとなっています。

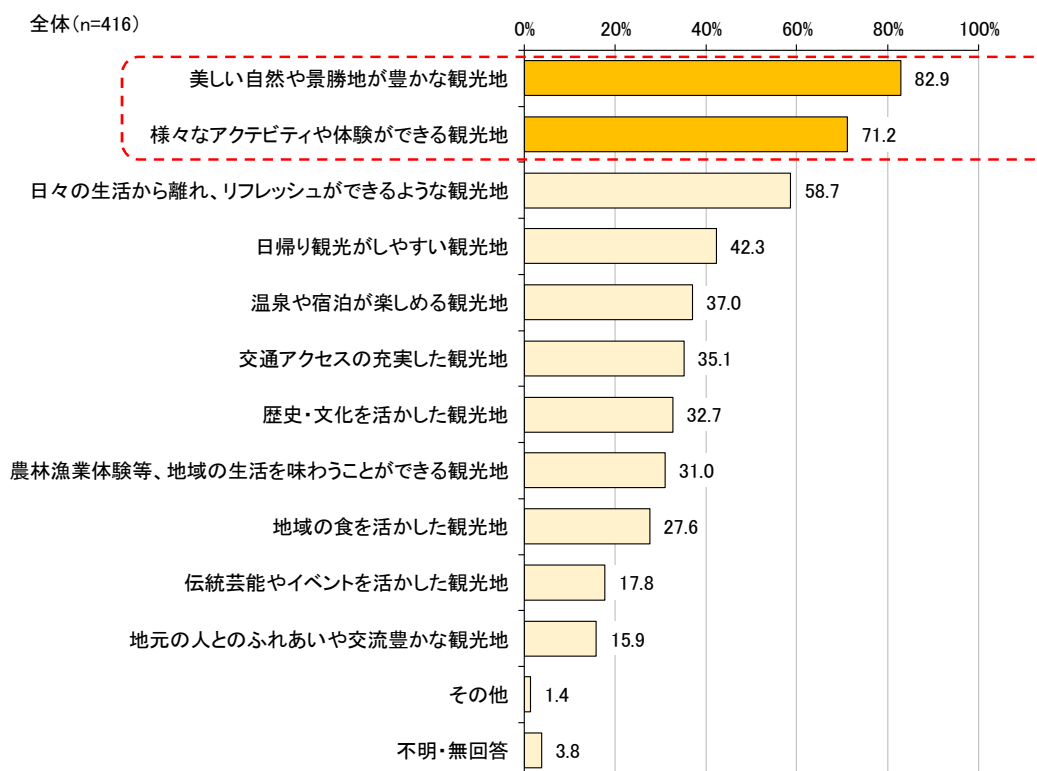
(3) 観光に対する市民のイメージ等

■施策の重要度・満足度



資料: 令和2年度「高島市のまちづくり施策」に関するアンケート(市政モニターアンケート)

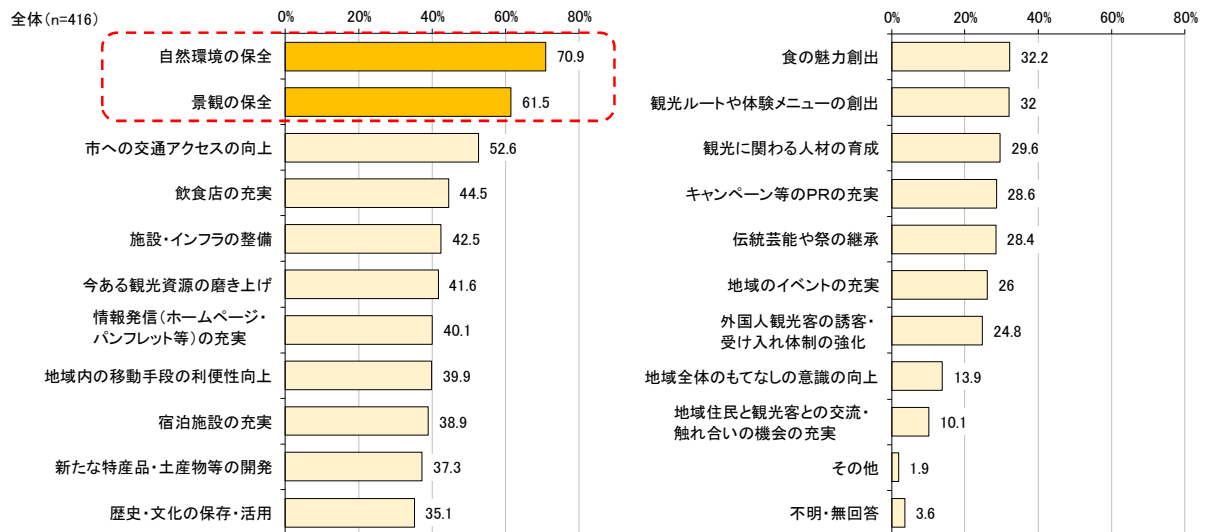
■本市は、どのような強みを持った観光地を目指していくべきだと思うか



資料: 令和4年度観光に関する市民アンケート

※市民 416 人の調査結果です。(以下同様)

■観光振興に必要な施策

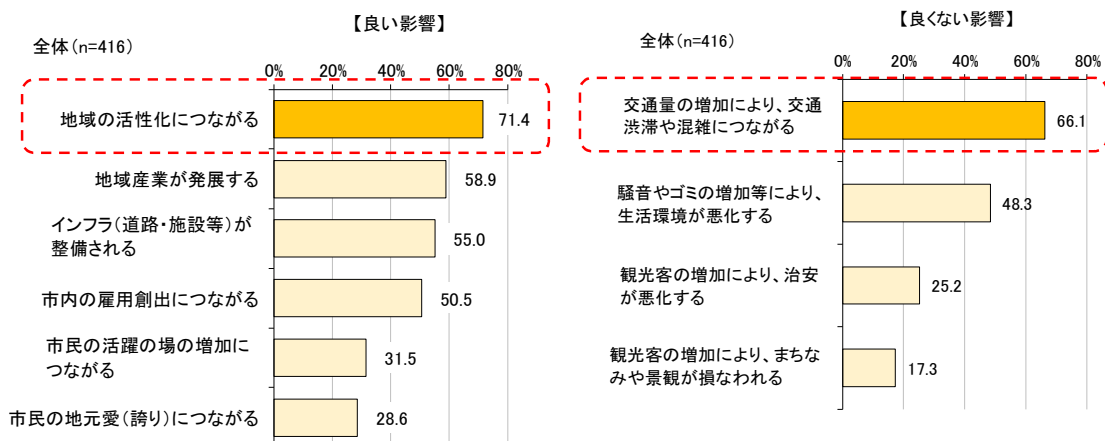


資料:令和4年度観光に関する市民アンケート

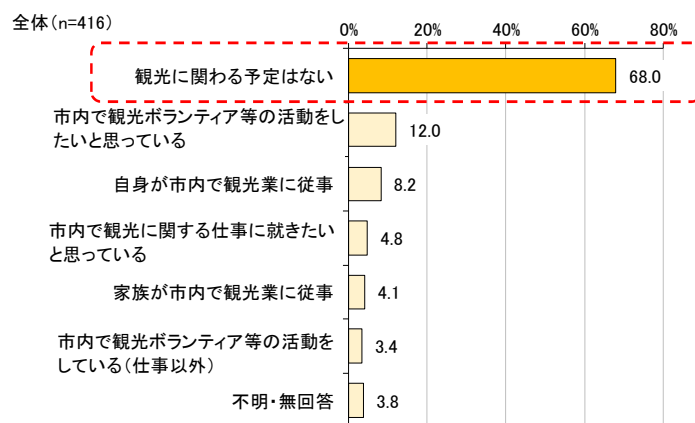
資料からみえる現状

- 「高島市のまちづくり施策」に関する市民アンケートでは【観光で国内・海外に「高島」を伝えます】についての市民意識が重要度・満足度ともに低い領域にあります。
- 本市の目指すべき観光地像についてみると、「美しい自然や景勝地が豊かな観光地」「様々なアクティビティや体験ができる観光地」が高くなっています。
- 観光振興に必要な施策についてみると、「自然環境の保全」「景観の保全」が高くなっています。

■観光客が訪れることによって生活に与える良い影響・良くない影響



■あなた、もしくは家族の観光への関わり



■市外の人に自慢・おすすめできる場所や食べ物、特産品

(上位3件)

【場所】(n=375)

- 1 位: メタセコイア並木
・マキノピックランド (155 件)
- 2 位: 海津大崎 (83 件)
- 3 位: 白鬚神社 (51 件)

【特産品】(n=345)

- 1 位: 高島ちぢみ (55 件)
- 2 位: 地酒 (49 件)
- 3 位: アドベリー (42 件)

【食べ物】(n=352)

- 1 位: とんちゃん (87 件)
- 2 位: 川魚・湖魚 (55 件)
- 3 位: 湖魚料理(佃煮等) (42 件)

資料: 令和4年度観光に関する市民アンケート

資料からみえる現状

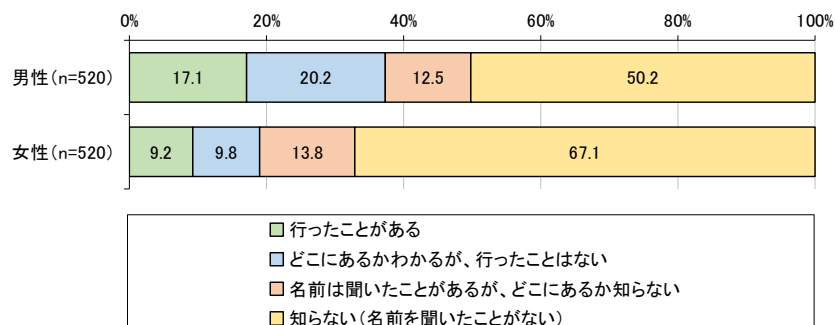
- 観光客来訪の市民生活への良い影響について、「地域の活性化につながる」が 71.4%、反対に良くない影響について、「交通量の増加により、交通渋滞や混雑につながる」が 66.1%となっています。
- 観光への関わりについて、「観光に関わる予定はない」が 68.0%となっています。

(4) 市外在住者からみる本市の認知度・来訪意向

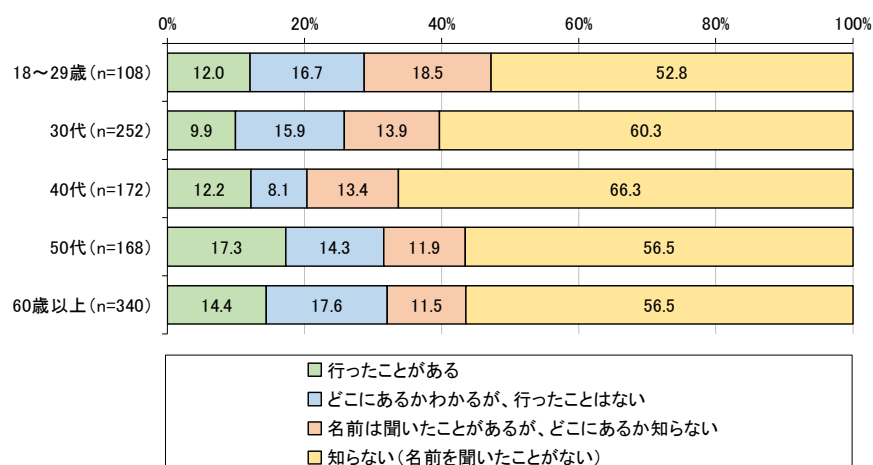
※令和4年度に実施した市外在住者 1,040 人の調査結果です。

■本市の認知度

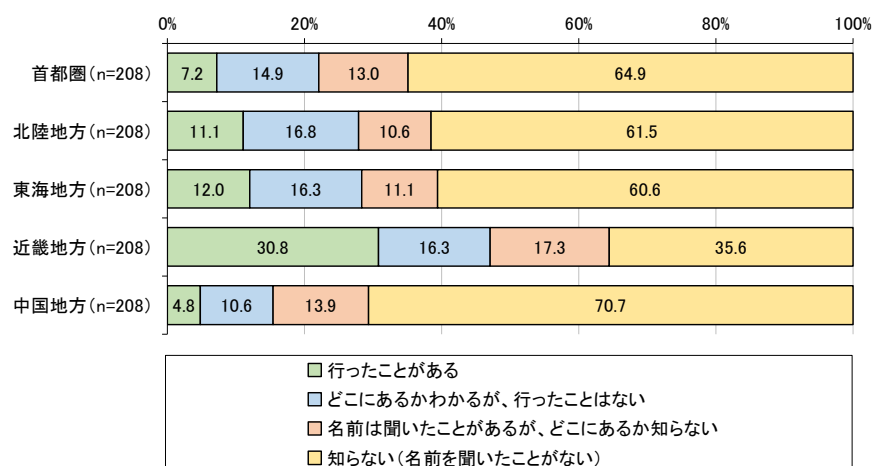
【性別】



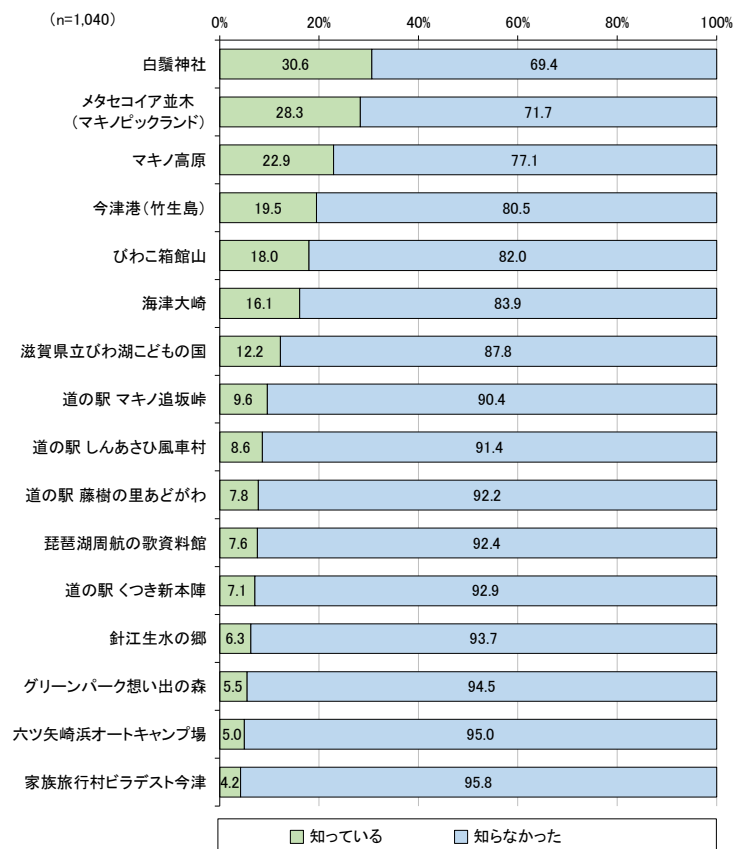
【年齢別】



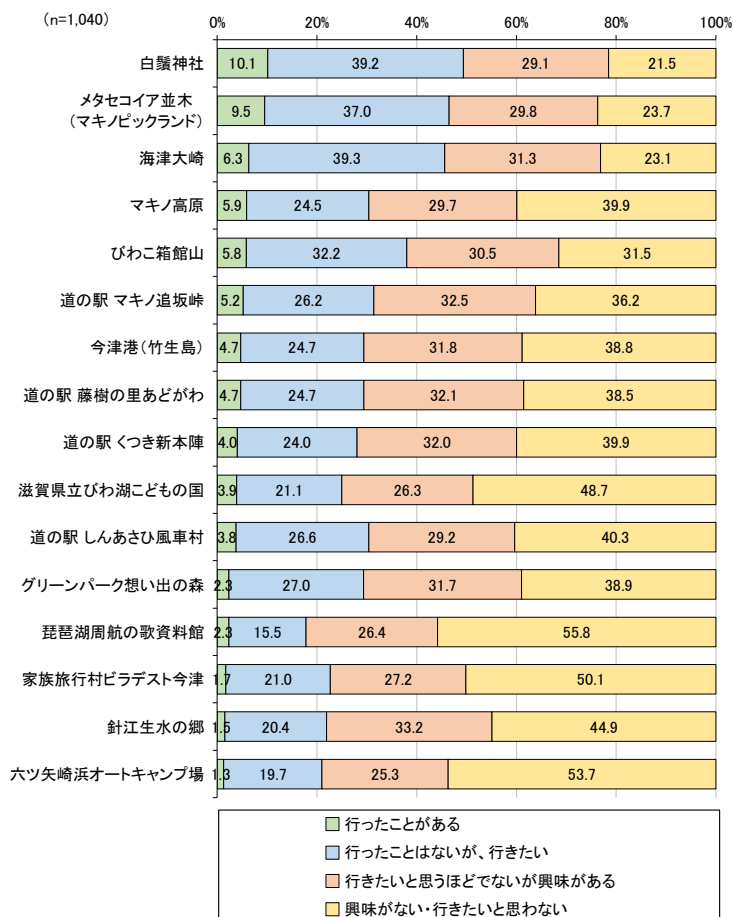
【地域別】



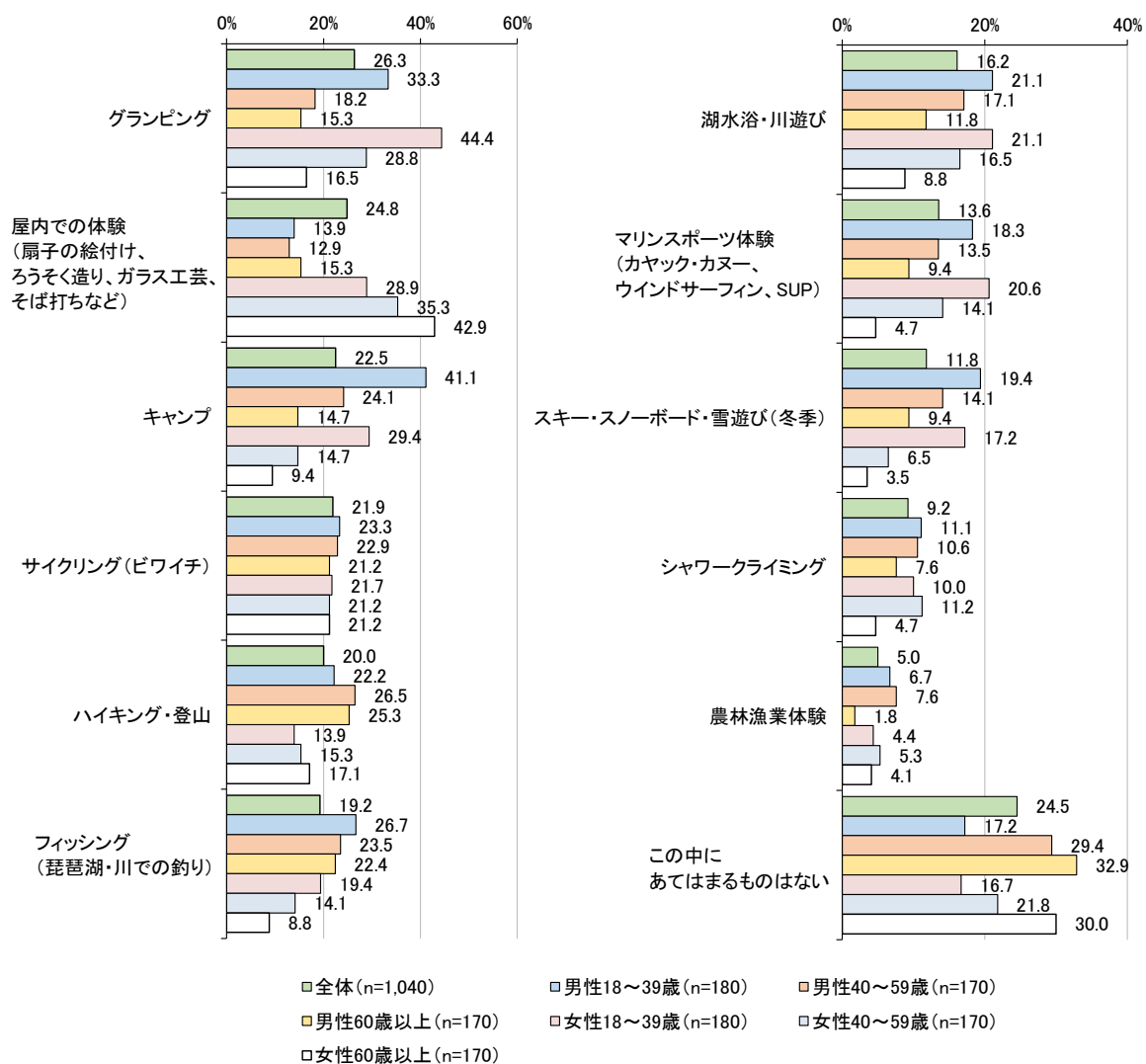
■本市の観光スポット・施設の認知度



■本市の観光スポット・施設の来訪経験・来訪意向



■本市でやってみたい体験・アクティビティ



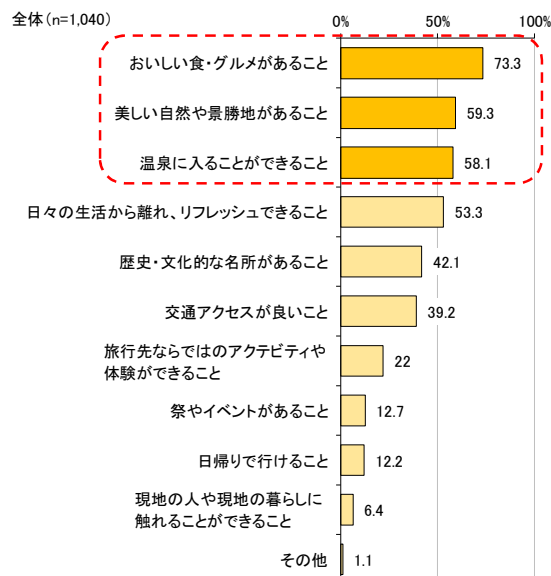
資料からみえる現状

- 本市の認知度は、「知らない(名前を聞いたことがない)」が 58.7%となっています。性別で見ると、女性より男性の方が認知度や来訪経験が高くなっています。また、地域別にみると、近畿地方では「行ったことがある」が他の地域に比べて高くなっています。
- 本市の観光スポット・施設の認知度は、【白鬚神社】が3割台、【メタセコイア並木(マキノピックランド)】【マキノ高原】が2割台となっています。
- 本市でやってみたい体験・アクティビティは、「グランピング」「屋内での体験」「キャンプ」が上位三位を占めています。

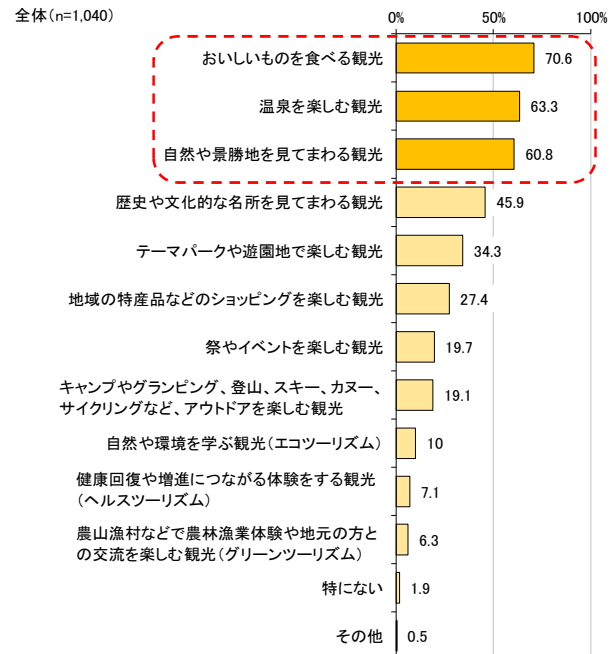
(5) 旅行に関して求めるもの等

※令和4年度に実施した市外在住者 1,040 人の調査結果です。

■旅行先で重視すること



■今後行ってみたい観光のタイプ



資料からみえる現状

- 「旅行先で重視すること」と「今後行ってみたい観光のタイプ」の上位三位は「食」「自然や景勝地」「温泉」となっています。

2 調査結果等からみえること

本市の観光業を取り巻く現状について、内部環境と外部環境を Strength（強み）、Weakness（弱み）、Opportunity（機会）、Threat（脅威）の4つの要素で要因分析を行うSWOT分析の手法を用いて整理しました。

●●SWOT分析による整理●●

	プラス要因	マイナス要因
内部環境	Strengths<強み> ①豊かな自然環境 ⇒原生に近いブナの森、人の生活と共に作られてきた里山、琵琶湖など豊かな自然環境を有する ②豊かな自然景観 ⇒メタセコイア並木や海津大崎の桜など豊かな自然景観を有する ③豊かな自然環境で育まれた食材 ⇒「近江牛」、「湖魚」、「発酵食」、「鯖寿司」などの食や食文化を有する ④多様な歴史・文化資源、生活文化 ⇒日本遺産に認定された水と人の営みが調和した暮らしの文化などが息づいている ⑤アウトドア系のアクティビティの充実 ⇒山々や湖・川などの自然を活かしたアクティビティを有する ⑥人気観光スポットの存在 ⇒メタセコイア並木や白鬚神社など多くの人が訪れる観光スポットが存在 ⑦京阪神からのアクセスの良さ ⇒大阪や京都から日帰りで来訪できる立地であり、実際の来訪も関西圏が多くを占める ⑧リピーター率の高さ ⇒2回以上訪問している方が70%を超えている ⑨教育旅行・合宿の受け入れ ⇒教育旅行や合宿の受け入れが多い ⑩自治体・団体等との連携 ⇒他の自治体や団体等と文化的につながりがあり、広域観光を推進する基盤が存在している	Weakness<弱み> ①オーバーツーリズムへの対策が不十分 ⇒限定的な期間、地域での、観光客の集中による生活環境の悪化、車での来訪が主となることによる交通渋滞や混雑への懸念 ②市内滞在時間が短い ⇒通過型観光が多く滞在時間が短い。市内周遊観光に向けたテーマごとのルート造成などが不足している ③観光振興に対する市民理解が低い ⇒市民の観光振興施策に対する重要度・満足度が低く、観光に関わろうとする人も少ない ④受け入れ体制の整備不足 ⇒観光地や駅周辺での案内標識の不足、デジタルツールへの対応の遅れ、二次交通の手段の不足など ⑤観光消費額が低い ⇒観光消費額が滋賀県全体に比べて低い ・日帰り:3,614円(県:3,910円)・宿泊:14,960円(県:21,781円) ⑥観光人材の不足と育成 ⇒観光従事者の高齢化や担い手不足により観光人材や後継者、また観光地域づくりに向けた専門知識と人材が不足している ⑦観光需要の特定時期への偏在 ⇒平日や冬季における観光入込みが低い ⑧情報発信力の不足 ⇒京阪神以外の地域での認知度が低い 市内観光事業者間相互の情報共有と発信が不足 ⑨観光地の点在 ⇒周遊に時間を要し、公共交通機関での移動が困難 ⑩観光統計等データの収集不足 ⇒観光に関する各種統計のデータ収集が不足しており、関係者間での共有が出来ていない

プラス要因

Opportunity<機会>

①ホテル開業やインフラ整備

⇒大型リゾートホテル開業や国道161号の改修、新幹線の敦賀延伸等

②インバウンド需要の急速な回復

⇒新型コロナウイルスへの水際対策の緩和や個人旅行の解禁等に伴うインバウンド需要が急速に回復している

③大型イベントの開催

⇒2025年の「大阪・関西万博」、滋賀県で開催される「国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会」、2027年の「ワールドマスターズゲームズ関西」など関西圏において大型イベントが開催予定

④「持続可能な観光」の推進

⇒政府が策定した「第4次観光立国推進基本計画」の中で、「持続的な観光地域づくり」が前面に打ち出された

⑤地域ならではの観光コンテンツの推進

⇒観光消費額や消費単価向上の実現のために、その地域ならではのコンテンツが着目されている

⑥シガリズムの推進

⇒「滋賀の自然に触れ、滋賀に暮らす人々と出会い、交流することで、ゆっくり、ていねいに暮らしてきた滋賀の時間の流れや暮らしを体感できる、“心のリズムを整える新たなツーリズム”」が滋賀県で推進されている

⑦滋賀県による北の近江振興プロジェクトの実施

⇒県が県北部地域において地域事情等を踏まえた振興に取り組んでいる

マイナス要因

Threat<脅威>

①日本人の国内旅行市場の減少

⇒人口減少等による国内旅行需要の減少

②観光DXへの対応

⇒デジタル化に対応出来ていない事業者が多く存在している

③旅行ニーズの多様化

⇒事業者においては、多様化する旅行ニーズへの対応が困難となっている

④担い手不足による自然・景観・地域運営の維持

⇒少子高齢化の影響などにより、市内の自然や景観を維持する担い手となる人材が不足している

⑤個人が発信する多くの情報の整理

⇒SNS等をはじめとする個人により発信される情報を正確に整理し、観光客への発信が必要

第4章 取り組みの方向性・基本方針

Ⅰ 基本方針に基づく取り組みの体系

目指す姿（ビジョンコンセプト）

～暮らす人・訪れる人が^{とも}友につなぐ たかしま～

基本 方針

Ⅰ 価値ある資源を最大限に活かす取り組みを進めます

自然や健康を意識する旅の変化、滋賀県が提案するシガリズムの取り組みが推進される中で、本市の強みである自然、景観、歴史文化等の魅力ある資源を活かした観光コンテンツに磨きをかけ、人気観光スポットを起点とした市内周遊の促進と、近隣府県からのアクセスの良さを活かした広域周遊促進など、様々な観光客を惹きつける魅力的な観光地域づくりに取り組みます。

-
- (1) たかしまが誇る資源を活かした観光コンテンツの提供
- (2) 人気観光スポットを起点とした市内周遊の促進
- (3) 魅力ある広域観光の推進

2 観光地に必要な機能強化を図ります

国道 161 号の整備促進や北陸新幹線敦賀延伸、インバウンド需要の拡大が見込まれる中、本市の認知度向上に向けた情報発信力の強化を図るとともに、継続的なマーケティング調査による観光統計の整備と活用、データに基づく戦略的なプロモーションに取り組みます。また、平日観光の推進に向けた取り組みや、観光客の市内滞在時間の延伸に向けた取り組みを強化し、観光消費額の向上を図ります。

-
- (1) 国内外に向けた情報発信の強化
- (2) 滞在時間の延長と観光消費額の向上
- (3) 継続的なマーケティング調査による観光統計の整備と活用

3つの視点

たかしまが誇る
自然・景観・歴史文化
を未来へつなぐ

みんなが大切にする
観光地域へ
～たかしまファンの創出～

稼げる観光地域
づくりの実現

3 時代のニーズを捉え個性を磨きます

観光に求めるニーズが多様化する中で、たかしまの独自性を伸ばすことで、「第2のふるさと」として何度も訪問してもらう関係づくりに取り組みます。また、教育旅行や合宿などの団体客の受け入れ強化を図るとともに、マーケティングの視点を取り入れ、個性を活かした観光コンテンツの提供を通じて、満足度の向上に取り組みます。

-
- (1) 第2のふるさとづくり
 - (2) 教育旅行・合宿などの団体客受け入れ強化活動
 - (3) 多様な主体が催すたかしま活性化事業の推進

4 盤石な受け入れ体制を構築します

多様化する旅行ニーズへの対応など、国内旅行市場を取り巻く環境に適応し、快適な旅行を満喫できる受け入れ体制の整備を進めるとともに、観光業を支える人材の確保や、本市の魅力である自然・景観を保全していくことが益々厳しい課題となることを踏まえ、市民の観光振興への関心と理解を深めていきます。

-
- (1) 観光客を受け入れる環境の整備
 - (2) 観光人材の確保・育成
 - (3) 愛着や誇りの醸成による地域資源の保全



基本方針Ⅰ



価値ある資源を最大限に活かす取り組みを進めます

- (1) たかしまが誇る資源を活かした観光コンテンツの提供
- (2) 人気観光スポットを起点とした市内周遊の促進
- (3) 魅力ある広域観光の推進

(1) たかしまが誇る資源を活かした観光コンテンツの提供

方針

大型イベントやインバウンド需要の回復により増加が期待される観光客や、「シガリズム」のコンセプトに共感して来訪した観光客に対して、日本遺産を構成する水辺景観、湿潤な気候と清らかな水が育んだ食文化など、本市の豊かな資源を活かした観光コンテンツの提供を行います。



今後取り組むこと

● たかしまの歴史や生活文化に触れる旅の提案

〔具体的な内容〕

水との関わりある営みが息づく暮らしや文化、日本の原風景というべき風土など、本市で暮らす人々が受け継いできた景観、歴史文化に触れる旅を提案します。

● たかしまの食を堪能できるコンテンツ造成

〔具体的な内容〕

湖魚や近江牛、地酒や鮎寿司に代表される本市の食文化を堪能できるツアーや体験コンテンツの造成を図ります。

● 製作体験、酒蔵見学など、深みのある体験型コンテンツの拡充

〔具体的な内容〕

和ろうそくや扇骨の製作などを体験できるコンテンツの拡充を図ります。

● 琵琶湖と森林を活かしたアクティビティの拡充

〔具体的な内容〕

奥山から里山、琵琶湖までが近い距離にある環境を活かし、アクティビティの拡充を図ります。

● シガリズムを体感できるコンテンツの充実

〔具体的な内容〕

「シガリズム」のコンセプトに共感して来訪する観光客に向けて、本市が誇る資源の魅力を活かした取り組みを進めます。

(2) 人気観光スポットを起点とした市内周遊の促進

方針

市内観光地間の連携と情報共有を円滑にし、魅力ある観光資源を面的に結びつけることにより、国内外から来られる観光客の市内周遊を促進し来訪客の満足度の向上を図ります。



今後取り組むこと

● 人気観光スポットを起点としたコンテンツの造成

〔具体的な内容〕

本市の人気スポットであるメタセコイア並木や白鬚神社を起点として、ヴォーリズ建築をはじめとする近代建築や、豊富な水と米を活かした酒蔵、大自然を体感することができる中央分水嶺・高島トレイルなどの本市の様々な魅力ある観光資源をテーマごとに結び付け、周遊コンテンツの造成を図ります。

● 市内周遊の促進に向けた観光情報発信ツールの設置

〔具体的な内容〕

人気観光スポットにおいて、国内外の観光客に向けた観光情報発信ツールの設置を行うことにより、市内観光地の周遊を促進します。

● 観光地間での連携強化

〔具体的な内容〕

市内の観光地間で、周辺施設の案内やお得な情報・サービスを提供するなどの連携強化を図ります。また、市内を巡ってもらうことによって、経済の活性化・地域活性化につながるような観光地域づくりを目指します。

(3) 魅力ある広域観光の推進

方 針

近隣自治体等との連携強化により、湖西、湖北、福井嶺南エリアをはじめとする各地域の魅力ある観光資源をつなげることで、広域的な観光の推進による更なる誘客に取り組みます。



今後取り組むこと

● 近隣地域との歴史・文化的なつながりを活かした地域の活性化

〔具体的な内容〕

若狭から本市を經由し京都へとつなぐ鯖街道など、歴史・文化的なつながりのある地域との連携による、誘客促進と地域の活性化を図ります。

● 北陸新幹線敦賀延伸を契機とした福井嶺南地域との連携強化

〔具体的な内容〕

北陸新幹線敦賀延伸に伴う交通アクセスの向上をきっかけとして、市内唯一の特急列車の停車駅である近江今津駅を中心に北関東や北信越地域からの誘客促進につなげます。

● 湖西線利用による京阪神地域からの周遊広域観光促進

〔具体的な内容〕

車窓から望む雄大な琵琶湖、緑豊かな比良山系の山並みと田園風景を満喫できる湖西線の旅の提案を通して、京阪神地域からの周遊観光につなげます。

● 友好都市や姉妹都市との交流を通じたPRの促進

〔具体的な内容〕

大阪府吹田市や守口市、愛知県大洲市といった友好都市や姉妹都市との交流を深め、互いのまちのPRを進めます。

● ビワイチを通じた県内、市内周遊の促進

〔具体的な内容〕

自転車で来訪する観光客の利便性の向上を図るとともに、市内周遊の促進に向けた取り組みを進めます。



基本方針2



観光地に必要な機能強化を図ります

- (1) 国内外に向けた情報発信の強化
- (2) 滞在時間の延長と観光消費額の向上
- (3) 継続的なマーケティング調査による観光統計の整備と活用

(1) 国内外に向けた情報発信の強化

方 針

本市の認知度向上と、観光地としての魅力を多くの方に知ってもらうために、国内外に向けて「旅マエ」に関する情報発信の強化に取り組めます。



今後取り組むこと

- 海外旅行代理店等へのプロモーションを通じた訪日旅行客の誘致促進

〔具体的な内容〕

滋賀県への来訪が多い台湾の現地旅行代理店へのプロモーションなど、本市の魅力を広くPRする取り組みの拡充を目指し、訪日旅行客の誘致促進を図ります。

- WEB 広告 (SNS、Youtube) 等を活用したプッシュ型の情報発信の強化

〔具体的な内容〕

若年層に広く普及しているSNSや動画配信サービスを活用したプッシュ型の情報発信を強化します。

- キービジュアルを用いた認知度及びイメージ向上に関する取り組み

〔具体的な内容〕

統一したキービジュアルを作成し、それらを用いたPR等を通じて本市の認知度とイメージ向上に取り組めます。

- 観光案内の拠点設置や観光施設での情報発信機能の充実

〔具体的な内容〕

集客力のある観光地や立ち寄り施設等における観光情報の提供の強化やデジタルサイネージによる情報発信など、情報発信機能の充実を図ります。

- 大阪・関西万博やワールドマスターズゲームズ、国体等の大型イベントでの情報発信

〔具体的な内容〕

万博をはじめとする大型イベントで情報発信を行い、本市への誘客につなげます。

(2) 滞在時間の延長と観光消費額の向上

方 針

インバウンド需要の回復などにより増加が期待される観光客に向けて「旅ナカ」情報発信の強化を行うなど、市内での滞在時間を延ばし、一人ひとりの観光消費額の向上につなげる取り組みを推進します。



今後取り組むこと

- 平日観光の推進に向けた訪日外国人旅行客の誘客促進

〔具体的な内容〕

訪日外国人旅行客の誘客促進を強化することで、平日観光の推進を図ります。

- 早朝や夜間の観光の推進などによる宿泊率の向上

〔具体的な内容〕

早朝や夜間などの時間帯の活用、周遊ルートの作成を通じて、宿泊を促すなど、滞在時間の延長につながる取り組みを進めます。

- 観光アプリや情報発信ツールの強化による旅ナカ情報の発信

〔具体的な内容〕

観光アプリをはじめとする情報発信ツールを活用し、市内の飲食店等の情報を提供するなど、「旅ナカ」に関する情報発信の強化を行います。

- 道の駅等の施設と連携した特産品の販売力強化やブランド化の推進

〔具体的な内容〕

高島ちぢみや帆布をはじめ、湖魚や地酒などの特産品、また、地元の農産物などの認知度向上のため、道の駅等と連携した販売強化、ブランド化を推進します。

- 点在している観光地のエリア分け等による周遊ルートの集約化

〔具体的な内容〕

市内に点在している観光地をストーリーなどでつなぎ合わせ、周遊ルートの集約を行います。

(3) 継続的なマーケティング調査による観光統計の整備と活用

方針

北陸新幹線敦賀延伸など情勢の変化と機会を踏まえ、客観的なデータに裏打ちされた取り組みを推進するために、観光に係るデータ収集と共有を行います。



今後取り組むこと

●観光に関する統計データの収集

〔具体的な内容〕

行政や観光協会が主体となり、地域の現状把握につながるデータの収集を行います。

●統計データの可視化と各種情報の共有

〔具体的な内容〕

観光に関する各種統計、アンケート調査結果など行政や観光協会が保有しているデータを可視化し、事業者等と共有します。

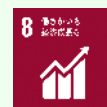
●各種データを活用した新たな事業の実施

〔具体的な内容〕

可視化されたデータを活用し、新たな事業を実施します。



基本方針3



時代のニーズを捉え個性を磨きます

- (1) 第2のふるさとづくり
- (2) 教育旅行・合宿などの団体客受け入れ強化活動
- (3) 多様な主体が催すたかしま活性化事業の推進

(1) 第2のふるさとづくり

方 針

ふるさとを持たない若者が増え、田舎に憧れと関わりを求める動きがあります。こうした多様化するニーズを踏まえ、たかしまを「第2のふるさと」として何度も通う旅、帰る旅といったあたらしい旅のスタイルを提案します。



今後取り組むこと

- 歴史ある街並みや風情を感じるまち歩き等の提案

〔具体的な内容〕

今津浜通りや高島びれっじなど歴史と風情ある街並みを活かしたコンテンツの造成など、たかしまの暮らしや風土をより深く体験してもらうコンテンツの充実に取り組みます。

- 鉄道や湖上交通、サイクリングなど交通手段で異なる観光の楽しみ方の提案

〔具体的な内容〕

何度来訪してもたかしまを楽しんでもらえるよう、様々な交通手段での観光の楽しみ方を提案します。

- 四季の魅力を楽しむ旅の提案

〔具体的な内容〕

たかしまの四季の魅力を発信し、自然に触れ、体験する旅を提案します。

- 祭りや行事などの地域の活動に参画する仕組みづくり

〔具体的な内容〕

祭りなど地域の行事に参画できる仕組みづくりを検討するなど、地域とのつながりを持つ「第2のふるさと」づくりを推進します。

(2) 教育旅行・合宿などの団体客受け入れ強化活動

方 針

人口減少等により国内旅行需要が減少していくことが予想される中、本市の学びの素材を活用した教育旅行の誘致や団体客向けの営業活動の強化に取り組みます。



今後取り組むこと

● 市内外の学校や団体に向けた教育旅行や合宿の誘致

〔具体的な内容〕

教育旅行や合宿目的の来訪の継続に向けて、海外を含む市内外の学校や団体に向けた教育旅行や合宿の誘致を引き続き行います。

● 市内外の民間企業に向けた研修会の誘致

〔具体的な内容〕

アクティビティ等を通じた交流の場の提供など、企業に対しPR活動を行うことで誘致促進につなげていきます。

● 「MLGs」を学べるプログラムの造成による教育旅行の誘致

〔具体的な内容〕

「MLGs」を学べる教育旅行を造成し、学校に対してPR活動を行うことで誘致促進につなげていきます。

(3) 多様な主体が催すたかしま活性化事業の推進

方針

少子高齢化や人口減少等により地域が衰退していくことが予想される中、市内外の方が主催する取り組みと連携し観光客を取り込むことで、地域の活性化を創出していきます。



今後取り組むこと

● 既存イベントとの連携強化

〔具体的な内容〕

市内で実施されているイベントの連携・協力による魅力を高め、イベントの集客拡大を図ります。

● 地域振興につながるイベントの誘致

〔具体的な内容〕

本市の魅力を活かし市民と観光客が一体となり、共に楽しめ販わえるイベントの誘致等を企業や団体等に働きかけます。



基本方針4



盤石な受け入れ体制を構築します

- (1) 観光客を受け入れる環境の整備
- (2) 観光人材の確保・育成
- (3) 愛着や誇りの醸成による地域資源の保全

(1) 観光客を受け入れる環境の整備

方針

日本人の国内旅行市場の減少や旅行ニーズの多様化等による観光地間での競争に残って
いくために、本市を訪れた人が快適な旅行を満喫することができるような環境の整備を行います。



今後取り組むこと

● ストレスフリー・バリアフリーで快適な旅行環境の整備

〔具体的な内容〕

各観光施設・観光地におけるストレスフリー・バリアフリーな旅行環境の整備や通訳ガイドの確保等に努めます。

● 交通情報の見える化の推進、MaaS 対応の検討

〔具体的な内容〕

MaaS の推進などを通じて、本市を訪れた方が快適な旅行を満喫できるための受け入れ環境の整備を行います。また、交通情報の可視化に向けた検討を進めます。

● 駅からの移動手段の確保に向けた取り組みの推進

〔具体的な内容〕

駅周辺からのアクセスを向上させるために、二次交通を充実させる取り組みの検討を行います。

● 弾力的な受け入れ体制の検討

〔具体的な内容〕

混雑の解消に向けて、先進事例等を参照しつつ、駐車場の有料化や混雑状況の把握システム等の導入を検討します。

● 地域DMOの設立に向けた検討

〔具体的な内容〕

関係機関との連携の下、地域DMOの設立に向けた検討を行います。

(2) 観光人材の確保・育成

方針

雇用環境や人口減少等によって人材が不足している状況を改善するため、観光DXを活用した生産性の向上や観光に関わる人材の確保に関する取り組みを推進します。



今後取り組むこと

- 観光 DX を活用した観光産業の生産性の向上

〔具体的な内容〕

人材不足の改善に向けて、観光DXの活用による生産性の向上等を目指します。

- 観光 DX に関わる取り組みをリードできる人材確保の支援

〔具体的な内容〕

観光DXに関わる取り組みをリードできる人材確保の支援に取り組めます。

- 観光に関わる人材の発掘と育成

〔具体的な内容〕

観光ガイドをはじめとした観光に関わる人材の発掘と育成に向けた取り組みを推進し、観光客を受け入れる体制の整備を目指します。

(3) 愛着や誇りの醸成による地域資源の保全

方 針

自然・景観などの保全を行い持続可能な観光を推進していくために、市民のシビックプライドを高めるとともに、観光振興への関心と理解を深める取り組みを推進します。



今後取り組むこと

- 市民向けの市内観光に関する講座・イベント等の開催や人材発掘・育成

〔具体的な内容〕

本市ならではの貴重な観光資源の価値と魅力を十分に理解した上で継続して保全活動に取り組んでもらえるよう、市民に向けた市の良さを知ってもらう取り組みや持続可能な観光振興への関心を持てる講座等の開催や人材発掘・育成に努めます。

- 学校教育における郷土愛の醸成

〔具体的な内容〕

小中学生の学習機会を通じて、地域の魅力や貴重な資源への理解を深めることで、郷土愛の醸成を図ります。

- 市民向け観光イベントの開催

〔具体的な内容〕

市民にも市内観光地の魅力を知ってもらうため、市内の観光施設を巡るイベントを開催し観光に関する理解を深めてもらいます。

第5章 計画の推進体制

1 本ビジョンを推進するための各主体の役割について

ビジョンで目指す姿の実現に向けた各種事業の実施にあたっては、事業者・関係団体、市民、行政等の本市の観光振興に携わるそれぞれの役割を明確にした上で、お互いが連携しながら取り組みを進めることが重要です。

事業者・関係団体の役割

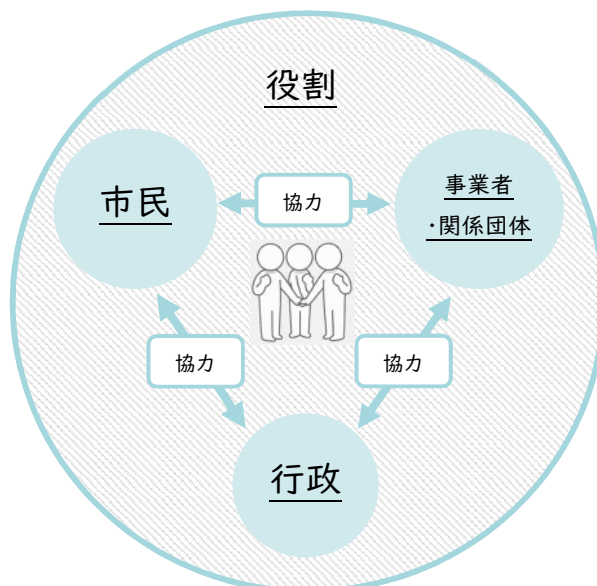
- 事業者・各団体の強みを活かしたサービスを提供します。
- 市全体で観光振興に取り組むため、事業者間での連携強化や情報共有を図ります。
- 市内周遊を促進するため、観光客に対して積極的な市内情報の発信を行います。

市民の役割

- 本市の魅力を再認識し、地域を誇りに思い、資源を保全します。
- 市民活動や観光に関するイベントに積極的に参加し、観光についての理解を深め、自信を持って地域の魅力を発信します。
- 観光客を温かく迎え入れることでたかしまファンを増やします。

行政の役割

- 様々な主体と連携して、観光による地域活性化を推進します。
- 観光客に満足していただける受け入れ環境の整備を推進します。
- エリアにとらわれない広域での連携、協力を推進します。



2 計画の進捗管理

ビジョンの施策を確実に進めていくため、関係者で構成されるたかしま観光ビジョン推進会議（仮）を開催し、取り組みの実施に向けたプランニングを行います。また、関係者で情報共有を図り、一体感を持って推進します。

■スケジュール

年度									
2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033
たかしま観光ビジョン									
たかしま観光ビジョン推進会議（仮）				たかしま観光ビジョン 推進委員会（仮）	たかしま観光ビジョン推進会議（仮）				
たかしま観光シンポジウム（仮）									

① たかしま観光ビジョン推進会議（仮）

【内容】

- ・PDCA サイクルによる進捗管理を行います。



計画（P）・・・目標を設定し業務計画を作成します
 実行（D）・・・Pの段階で立てた計画を実際に実行します
 検証（C）・・・計画に沿って実行出来ていたかを評価します
 改善（A）・・・実施結果を検討し、業務の改善を行います

【出席者】

外部関係者、行政

② たかしま観光シンポジウム（仮）

【内容】

- ・シンポジウムなどを開催し事業者や市民を対象にビジョンの周知や理解促進を図ります。
- ・観光関連の講師を招聘し、観光振興に関する講演を行います。

【参加者】

事業者、市民、行政

③ たかしま観光ビジョン推進委員会（仮）

【内容】

- ・ビジョンの中間見直しにかかる議論を行います。
- ・中間見直し以降にかかる推進体制について検討します。

【出席者】

産官学金などの関係者

※ 産・・・産業界 官・・・官公庁 学・・・大学 金・・・金融機関

3 数値目標

10年後の達成目標として、3つの目標を掲げビジョンを推進します。

■ 目標

- ①本市が誇る自然・景観・歴史文化を未来へつなぐため、地域保全の活動をしている団体数を維持します。

☆評価指標：地域保全の活動をしている団体数

現状（令和4年）
33 団体



目標（令和15年）
33 団体

- ②本市をまた訪れたいと考える方々を増やすことで、たかしまファンを創出していきます。

☆評価指標：再訪意向

現状（令和4年）
63.7%



目標（令和15年）
80%

- ③本市への観光入込客数を増やすことで、観光業をはじめとする様々な産業への地域内循環を生み出し地域活性化につなげていきます。

☆評価指標：（1）日帰り観光入込客数

（2）宿泊観光入込客数

（1）日帰り観光入込客数

現状（令和4年）
3,201,226 人



目標（令和15年）
4,850,000 人

（2）宿泊観光入込客数

現状（令和4年）
334,780 人



目標（令和15年）
650,000 人

Ⅰ 実施調査一覧

調査手法	内 容
観光に関する市民アンケート調査	市民と行政が一体となった観光推進のための現状を把握するための調査。(市政モニターアンケートを活用した WEB 調査にて実施。)
	● 調査対象:市内在住の 15 歳以上の方
	● 配布数:748 件、有効回収数:416 件
市外在住者向け WEB アンケート調査	市外在住者の高島市の認知度や来訪経験、興味・関心度を把握するための調査。(インターネットモニターを活用した WEB 調査にて実施。)
	● 調査対象:首都圏・東海地方・近畿地方・北陸地方・中国地方在住の 18 歳以上の方 (高島市在住者を除く)
	● サンプル数:1,040 件
来訪観光客動態調査	● 調査時期:令和5年4月
	本市への来訪観光客の動向を把握するための調査。
	● 調査対象:市内観光地6地点を訪れた観光客の方 ※調査地点:マキノピックランド、今津港、道の駅くつき新本陣、六ツ矢崎浜オートキャンプ場、道の駅藤樹の里あどがわ、白鬚神社
団体・事業者ヒアリング (意見交換会)	● サンプル数:840 件
	● 調査時期:令和4年 11 月～令和5年7月 (春夏秋冬4調査)
	市内の観光に関わる団体・事業者等の現状や課題の把握、ビジョンの方向性に関する意見交換のために実施。
	● 対象:観光に関わる市内の団体・事業者
	● 実施時期:令和5年 7 月

2 高島市観光ビジョン策定委員会委員名簿

所 属	職 務	氏 名	備考
神戸大学大学院経営学研究科	准教授	吉田 満梨	会長
公益社団法人びわ湖高島観光協会	副会長	谷口 良一	副会長
滋賀大学経済学部	准教授	山下 悠	
西日本旅客鉄道株式会社 近畿統括本部京滋支社	副支社長	野口 明	
江若交通株式会社	企画課長	大槻 幸彦	
高島経済会 (西友商店株式会社 代表取締役社長)	観光部会 部会長	阪田 嘉仁	
株式会社滋賀銀行今津支店・新旭支店	湖西エリア統轄店長	西村 尚	令和6年 1月31日まで
同上	同上	高木 章	令和6年 2月1日より
滋賀県観光振興局シガリズム推進室	主幹 兼 誘客促進係長	奥本 晃士	
公益社団法人 びわこビジターズビューロー	海外誘客部長	原田 佳和	
高島市商工会	事務局次長	石田 久一	

※順不同・敬称略

3 高島市観光ビジョン策定委員会開催日

会議名	実施日	場所
高島市観光ビジョン策定委員会 第1回	令和4年9月1日	高島市役所
高島市観光ビジョン策定委員会 第2回	令和4年10月26日	高島市役所
高島市観光ビジョン策定委員会 第3回	令和5年1月13日	高島市役所
高島市観光ビジョン策定委員会 第4回	令和5年3月27日	高島市役所・オンライン
高島市観光ビジョン策定委員会 第5回	令和5年7月4日	高島市役所・オンライン
高島市観光ビジョン策定委員会 第6回	令和5年9月26日	高島市役所
高島市観光ビジョン策定委員会 第7回	令和5年11月27日	高島市役所
高島市観光ビジョン策定委員会 第8回	令和6年3月27日	高島市役所

たかしま観光ビジョン

発行年月：令和6年3月

発行：高島市 商工観光部 観光振興課

〒520-1592 滋賀県高島市新旭町北畑565番地

TEL：0740-25-8040 FAX：0740-25-8156

